

第64回北九州医工学者会議

新たな研究シーズの探索に向けた 医・歯・工の連携

日時 2024.11.7 木 14:00~17:40

会場 北九州学術研究都市 産学連携センター 2F 中会議室1

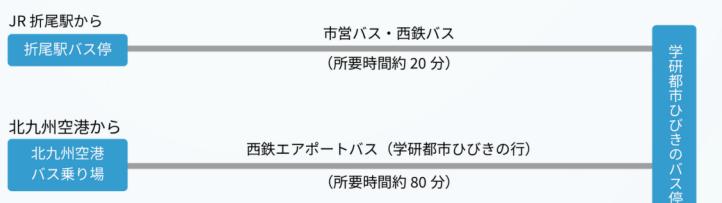
参加無料

定員:40名

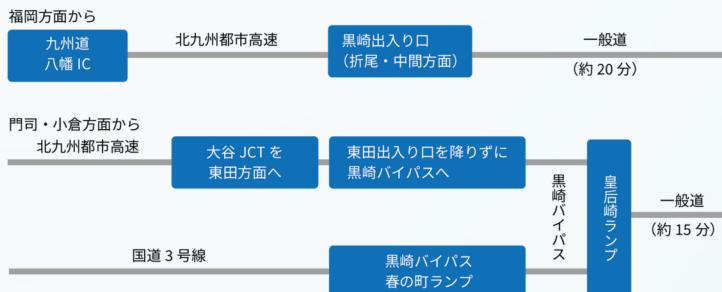
北九州医工学者協会は1990年に北九州市が中心となり、学術、産業および行政の各分野における専門家の研究および交流を通じ、専門家の知識と産業界の高度な先端技術力を結集し、新たな学術環境の創造を図るとともに、地域に新しい産業・技術を創出することにより、地域経済の発展に寄与することを目的に設立されました。今年度も昨年度に引き続き産学官のシーズとなりうる多くの演題が集まりました。本会は基礎研究から臨床医学ないし臨床検査につながる研究シーズの宝庫と言ってもよいと思います。医・歯・工を礎にして産学官のさらなる連携を目指して活発な議論を期待しております。より多くの方のご参加をお待ちしています。

学研都市へのアクセス

【公共交通機関をご利用の場合】



【車でお越しの場合】



お申込み・お問い合わせ

(公財) 北九州産業学術推進機構<FAIS>

産学連携センター 産学連携

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2番1号
TEL:(093) 695-3006 FAX:(093) 695-3018
URL: <https://www.ksrp.or.jp/fais/iac/index.html>

右のQRコードより
お申込みください



ご記入いただいた個人情報は、(公財)北九州産業学術推進機構が別途定めており、個人情報保護方針に基づき細心の注意を払い取り扱います。
無断で第三者に提供することはありません。当財団が開催する産学連携に関するイベント等についてDMやE-mail等にてご案内する場合があります。

新たな研究シーズの探索に向けた医・歯・工の連携

■ プログラム

14:00～14:05 開会挨拶

14:05～14:25

「介助動作の筋骨格シミュレーションにおける手に作用する力の影響」

九州工業大学 大学院生命体工学研究科

内村 涼

介護士や看護士を始め腰痛は大きな問題です。腰部にかかる負荷を計測する際、筋骨格シミュレータが使われます。介助動作では手に負荷がかかりますが、その影響を考慮した結果はありません。そのため圧力センサを用い、手に作用する負荷を反映させることで、どれくらい精度に差があるかを確認しました。

15:55～16:15

「抗菌活性イオンを担持したジルコニアインプラントの抗菌性評価」

九州工業大学 大学院生命体工学研究科

入口 俊介

日本のような超高齢社会では、インプラントが身近な存在になっています。私たちは、 α -リン酸ジルコニウムを用いて、これまでにない、生体親和性と抗菌性をもつジルコニアインプラントを開発しています。今回は歯周病菌への抗菌性についての発表を行います。

14:25～14:45

「ウェアラブルデバイスを用いた咀嚼行動の評価」

九州歯科大学 地域健康開発歯学分野 助教

白木 光

咀嚼は栄養や全身の健康と関連することが報告されていますが、その評価には専門的な機器が必要です。そこで本研究では、歯科医療従事者でない者でも使用できるウェアラブルデバイスを用いて咀嚼行動の評価を試みました。

16:15～16:35

「小児歯科領域に関する画像と研究」

九州歯科大学 歯科放射線学分野 教授

森本 泰宏

九州歯科大学附属病院に所有しているMRI、CT、超音波検査、歯科用CTを利用した臨床及び研究で特に小児歯科領域で応用されているものについて報告します。

14:45～15:05

「歯周病原菌に対するプロバイオティクス菌の効果」

九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授

前田 憲成

成人の8割が罹患し、重度になると全身疾患にもかかわる歯周病に対して、プロバイオティクス菌がもたらす効果を紹介します。特に、歯周病原菌が形成するバイオフィルムの特徴とその分解への乳酸菌群の関わりについて、これまで得た成果を発表します。

16:35～16:55

「マルチ酵素生成菌 *Aeromonas hydrophila* ST5株を用いた抗ウイルス活性の向上化」

九州工業大学 大学院生命体工学研究科

松島 雄大

現在世界中には、人間や家畜、農作物に感染する有害なウイルスが多種多様に存在し、毎年多くの被害を出しています。そうしたウイルスに対する新たなアプローチとして、微生物が生成する酵素を用いたウイルスの不活性化を調査し、その抗ウイルス活性の向上化を検討しました。

15:05～15:25

「歯磨剤のフッ素が歯冠修復物の表面性状に及ぼす影響」

九州歯科大学 大学院歯学研究科

松尾 実咲

歯磨き粉に含まれるフッ素は、う蝕や歯周病を予防すると言われていますが、口腔内で使用する材料（歯冠修復物）を劣化させる懸念があります。そこで本研究では、歯磨剤に含まれるフッ素が歯冠修復物に及ぼす影響を明らかにします。

16:55～17:15

「ラットにおける食品ゲルのテクスチャー識別」

九州歯科大学 大学院歯学研究科

若尾 拓俊

咀嚼過程において、食品のテクスチャー認知は食塊形成に重要な役割を果たしています。しかし、その認知メカニズムは明らかになっておらず、更にメカニズム解明に必要な動物実験系も確立されていません。我々はゲル食品に着目し、ラットでのテクスチャー認知を評価したのでご紹介します。

15:25～15:45

「口腔がん細胞の増殖を抑制する口腔内常在細菌の存在」

九州歯科大学 大学院歯学研究科

戌亥 衣祝

口腔内には数百種もの細菌が常在しています。それら常在菌と口腔がんとの関連はほとんど不明です。本研究では、口腔内常在菌である *Streptococcus mitis* が、口腔がんの増殖を抑制することを明らかにします。

17:15～17:35

「3Dプリント技術を応用した生体模倣歯の開発」

九州歯科大学 大学院歯学研究科

森 涼

現在のインプラント材料に代わる、新しい歯科材料の開発を進めています。本研究では3Dプリント技術を応用して、天然歯に近い”生体模倣歯”を開発しました。この生体模倣歯は歯質に近い強度を有し、歯根膜と接着することが期待されます。

15:45～15:55 休憩

17:35～17:40 閉会挨拶